

(様式3)

農業研究成果情報

No. 761 (平成 28 年 5 月) 分類コード 02-08 熊本県農林水産部

冬期に低温となる地域における春整枝の適期は萌芽期の 30~20 日前である

冬期に低温となる球磨地域などにおける春整枝の適期は萌芽期の 30~20 日前で、秋整枝と比べて収量が多くなる。

農業研究センター球磨農業研究所 (担当者: 坂本孝義)

研究のねらい

秋整枝は春整枝と比較すると翌年一番茶芽の萌芽期が早く、芽揃いも良く、摘採時期が早くなることから、県内では平均気温が 20℃以下になるのを目安に秋整枝がなされている。ところが、近年では温暖化傾向にあることから、越冬芽の耐凍性が十分に確保されないままに低温に遭遇していることが推察される。特に、冬期に低温となる球磨地域などでは越冬芽が枯死する被害が発生しており、整枝法については再検討する必要がある。

そこで、整枝法が一番茶の摘採時期や収量に及ぼす影響を明らかにする。

研究の成果

1. 球磨地域においては、秋整枝は枯死芽や新芽が湾曲した異常芽の発生が多くなるが、春整枝は枯死芽が無く、異常芽も少ない。また、春整枝は秋整枝と萌芽期がほぼ同等である (表 1)。
2. 球磨地域における春整枝の適期は、萌芽期の 30~20 日前であり、秋整枝と比べ収量は 10% 以上多くなる (表 2)。

普及上の留意点

1. 本試験は、‘やぶきた (1969 年定植)’ を供試し、球磨農業研究所 (標高 166m、年平均気温 15.2℃、図 1) での試験結果である。
2. ‘やぶきた’ の一番茶萌芽期は前 5 ヶ年平均で 3 月 29 日である。

表 1. 整枝時期の違いが越冬芽と一番茶萌芽に及ぼす影響

試験区	2014 年				2015 年			
	枯死 芽率 (%)	異常 芽率 (%)	整枝面と枯 死芽基部の 距離(mm)	萌芽期 (月日)	枯死 芽率 (%)	異常 芽率 (%)	整枝面と枯 死芽基部の 距離(mm)	萌芽期 (月日)
30 日前春整枝	0	11	-	3 月 30 日	0	2	-	4 月 2 日
20 日前春整枝	0	7	-	3 月 30 日	0	0	-	4 月 1 日
10 日前春整枝	0	2	-	3 月 31 日	0	0	-	4 月 1 日
(対照)秋整枝	20	60	12±7	3 月 31 日	24	9	18±8	4 月 2 日

注 1) 30 日前春整枝は 2 月 27 日、20 日前春整枝は 3 月 10 日、10 日前春整枝は 3 月 19 日、秋整枝は 2014 年が前年の 10 月 27 日、2015 年が前年の 10 月 28 日に行った。

注 2) 防霜ファンを 2℃設定で、2014 年は 3 月 10 日から、2015 年は 3 月 11 日から稼働した。

注 3) 萌芽期に各処理区の任意の 2ヶ所、20×20cm 枠内の枯死芽や異常芽を計数した。また、秋整枝区については、任意の 20 母枝について整枝面から枯死芽の基部までの距離を計測した。

表 2. 整枝時期の違いが一番茶収量に及ぼす影響

試験区	2014 年			2015 年		
	生葉収量 (kg/10a)	指数	出開度 (%)	生葉収量 (kg/10a)	指数	出開度 (%)
30 日前春整枝	340	121	30	618	112	69
20 日前春整枝	355	127	25	614	112	48
10 日前春整枝	329	117	19	561	102	46
(対照)秋整枝	280	100	24	550	100	84

注) 2014 年は 5 月 2 日、2015 年は 4 月 29 日に摘採した。

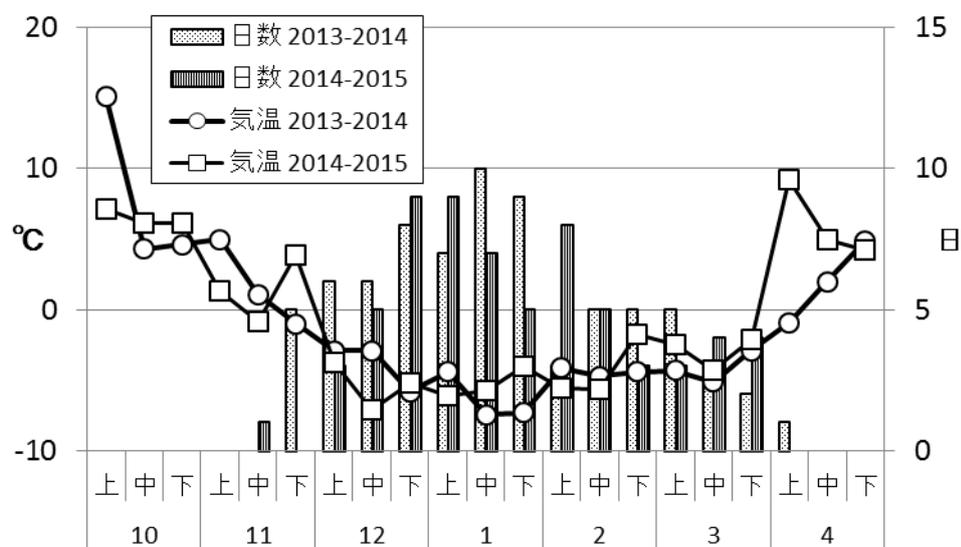


図 1. 球磨農業研究所における旬毎の最低気温と、気温が 0℃を下回った日数